

年 組 名前:

問1

JA 全農やまなしが 2020 年度に取り扱った果実の販売量は、過去 10 年間で最少の 3 万 3488 トンでしたが、過去 10 年間で最多だった 2012 年度に比べ  
 ①何トン、②何%減少したのか、グラフを基に計算してください。

- ① 「                      トン」
- ② 「                      %」

問2

2020 年度の販売量が減少したのは、病害などの影響を受けたことが要因です。ブドウと桃について具体的にどんな病害などが発生、流行したのですか。

・ブドウ : .....

・桃 : .....

問3

一方で、2020 年度の販売額は、2019 年度に比べ増加しました。その要因を 2 つ挙げてください。

.....

.....

.....

JA 全農やまなしが 2020 年度に取り扱った果実の販売量は 3 万 3488 トンで、過去 10 年間で最少となったことが 23 日、分かった。主力のブドウと桃が病害などの影響を受けたことが要因。JA 全農は販売量の減少に危機感を募らせており、農家に防除の徹底などを呼び掛けている。

JA 全農によると、20 年度の果実全体の販売量は前年度より 21.84% (6.1%) 減少。ブドウは 1.86% (12.6%) 減の 1 万 2925 トン、桃は 24.1% (1.7%) 減の 1 万 4001 トンだった。過去 10 年で販売量が最多だった 12 年度と比べると、ブドウは約 7800 トン、桃が約 8600 トン減少した。

ブドウは昨年 7 月の長雨の影響で、巨峰、ピオーネなどの黒系品種を中心に実が腐る「晩腐病」や玉割れが発生。品目別では、種なし巨峰が 3779 トン (前年度比 79.2%)、ピオーネが 1527 トン (同 76.7%) だった。

桃は、枝葉や実に黒褐色の病斑が出る「せん孔細菌病」が流行。日川白鳳が 2466 トン (同 96.8%)、川中島白桃が 798 トン (同 93.7%) などだった。

一方で、販売額は 19 年度比 11 億 9125 万円 (3.7%) 増の 32.4 億 5333 万円。ブドウや桃の市場への供給量の減少や、高級品種「シャインマスカット」の人気が多くの品種で単価が上がったことが要因という。ただ、JA 全農の担当者は「単価はいつ頭打ちになるか分からない」としている。

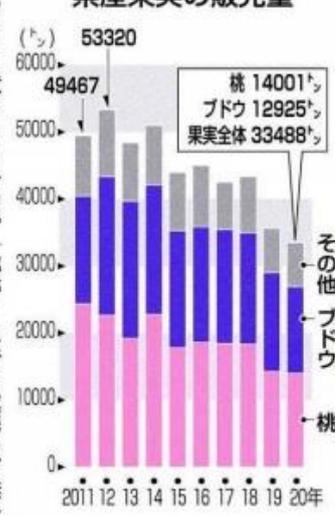
JA 全農は 21 年度の目標販売量として、ブドウで 1 万 5 千トン、桃で 1 万 6 千トンと設定。

〈山本昂輝〉

# 果実販売量 10 年で最少

## 昨年度県内ブドウ、桃に病害

県産果実の販売量



(2021 年 4 月 24 日付 山梨日日新聞 1 面)